



## 21世紀市民プロジェクト“ミュゼ” 第5回ミーティング

2009・3・17（火）噴火湾文化研究所 ゲストハウスにおいて、20名の会員による全体会議を行いました。進行役は、世話人 太細氏。「活動趣旨と基本計画案」について、事務局 青野氏より説明が行われました。当日参加できなかった方は、資料が配布されましたので、内容をご確認のうえご理解頂きたいと思えます。

### 21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”の活動趣旨と基本計画案

**はじめに** 設立総会から4ヵ月が経ち、活発な意見が交わされ、具体的な事業案についても多くの討議がされました。しかし、よりスムーズな議論を進める為にも、活動趣旨を再確認する必要があると考えます。私達の活動は長期間をかけて行うもので、今後行う各事業についても長期的な全体計画を常に意識して実施する必要があります。細かな点の議論は、活動趣旨と長期間の全体計画を再確認することで、時間とともにされるはずで

#### ミュゼの活動趣旨

- I. 目的
  - ①アンケートの実施（作成・市民意見の記録・データ整理と公表）
  - ②イベントを通して博物館づくりに対する理解を得る。
  - ③学習会・講演会・ワークショップなどの開催。

#### II. 方法 「博物館づくり自体を官民協働のイベントにする」

伊達市は官民協働の実績のある街である。ミュゼの検討したプランが、本当に社会に必要とされる内容か？この準備を経た先に目標の「博物館」が見えてくるのではない。仲間を増やしていくという意味は、このプランに関わったか否かで博物館への利用が左右されると思うからである。

#### III. プロジェクトの意義・・・全国の博物館と「博物館づくり」の現状

博物館には様々な種類があり人気に差がある中で、分野にとらわれず、「地域のあらゆる文化を徹底的にみつめ、今に活かすための博物館」が望まれる。もう一つは、博物館の作り方が市民主体で行われ、オープン後の活用のされ方を考慮している点です。日本全国を見ても、市民自らが主体になり、官民協働で博物館をつくとゆう例はないのです。そのような中で時代の流れを先取りした挑戦は私達のプロジェクトの大きな意義と言えるのではないのでしょうか？

#### IV. ミュゼの役割・・・「目的達成のための仕掛け人」

私達は具体的な事業を企画し、実施することになります。個々の事業の成功が目的でなく、事業を通して意見を集め、活動への理解者と仲間を増やしていく事が大事です。目的達成に向けた活動を行った先には「目標」としての「博物館の実現」が見えてくると考えます。



### 2009年の事業と目的 ◆ “ミュゼ”メンバーの学習と意見集約を目的とした事業

- ・テーマを設けたグループ討議
- ・博物館見学ツアー
- ・博物館づくり
  - ジュニア・ワークショップ
- ・街角はくぶつかん

**次回開催予定**

市内の博物館見学ツアー・決行

4月5日（日）9時～13時【参加費無料】

集合はゲストハウス。終了後はゲストハウスで昼食と意見交換を行います！

4月3日（金）まで事務局に申込を。

**第6回ミーティング**

4月14日（火）6時半～

会場・ゲストハウス

「伊達の生い立ちとは何か」をテーマにグループ討議を致します。



## 【 地域と記録 】 室蘭民報 栗島暁浩

東川町出身の写真家で昨年他界した飛弾野数右衛門氏(享年93歳)は、カメラを手にマチを80年間記録し続けていた。その写真が見いだされ、まとまった形で展示されたのは晩年の1985年。それまで決して表に出さず、撮った人にそっと手渡しては、喜ぶ顔を糧にしていた。「写真の町」として知られる東川町は、写真甲子園開催などマチづくりと連動した文化振興を進めている。こうした動きにも飛弾野氏は口出しせず、千本の長尺フィルムの資産も「ろくなもんじゃない」と見せなかったようだ。しかしその内容はマチの一級の記録で、激動の時代を生き抜いた町民の姿、地域の足跡を今に伝えている。

博物館を考える時、住民に身近な記録と、後世に残す重要性を感じる。この地には掛川源一郎氏によるモノクロームの記録が残されているが、この先の歩みを住民の視点でどう残していくか。さらに地域には飛弾野さんのような人物が眠っている可能性もある。人材だけでなく個人所蔵作品の掘り起こし、展示の機会があれば興味深い。

北海道で記録に生きた飛弾野氏と掛川氏は、ともに東川賞特別賞を受賞している。

## 【皆さんの熱気に驚きながらも】 世話人 的場重一



【有珠モシリ遺跡 副葬品】

ミューゼに参加の際には、「私たちのまちの文化を未来に引き継ぐための施設は、どんなものが相応なのかということも多く市民の皆さんからの意見も集め、こうあればいいという形をまとめてみようという集まりです。」と声をかけていただきました。いまは、ミューゼ本番の活動に向けた共通認識を深めるための話し合いをしている段階ですが、皆さんからはもう具体的な「あるべき論」が熱く語られています。初回以来、集まった皆さんの熱気に驚いています。私たちのまちには縄文時代からの人の営みや開拓の歴史、書や絵画など未来に引き継ぐ宝がいっぱいあります。このためにどんな施設が望まれるのか？きつ話し合いの視点は多く議論は尽きないのだと思いますが、一言を持つ人たちの集まりについていけるかとの不安を抱きながら自分を奮い立たせています。



【開拓記念館蔵オルゴール】

## ～博物館なるほど物語～

## 町そのものが博物館「トレド」 世話人 林 良平

10年ほど前、スペインを旅行したことがある。その時深く印象に残った町が「トレド」である。マドリッドから40kmほど離れ、イベリア半島の中央を流れるタホ川のほとり、小高い丘にひっそりと存在しているのが、人口4万人ほどの町「トレド」である。ローマの支配から8世紀以後のイスラムの時代、そして13世紀レコンキスタによるキリスト教の時代と波乱の歴史を持っている。当時は王宮もありスペインの中心的な町であったが、1561年宮廷をマドリッドに移してからは、地方の小都市となる。イスラム時代のモスクがキリスト教の教会に転用されたりして、イスラム文化が色濃く残っている。何よりすごいのは、16世紀の建築物、道路がそのままの状態で見られることだ。改築等は法で禁じている。16世紀にタホ川対岸から町全体を描いた画が残っているが、その風景が今もほとんど変わっていないのだ。タホ川にかかる橋を渡って町の中に入ると、さながら中性のスペインの町に放り込まれた錯覚におちいる。まさに町そのものが博物館といった感じであった。建造物が石または煉瓦造りであるため保存も容易なのだろうが、この町をスペインの人達は大事にしているためでもあろう。



【編集後記】 少しずつ春の訪れを感じる今日この頃ですが、今月から開拓記念館・宮尾文学館が開館致しました。4月から北黄金貝塚もオープン致します。晴れた日に、のんびりと散歩でもしてみませんか？ ニュースレターでは、引き続きコラムを募集致しますので気楽に寄稿をお願い致します。

## 【21世紀市民プロジェクト“ミューゼ”事務局】

〒052-0031 伊達市館山町 21 番地 5 TEL 0142-21-5050 FAX 0142-22-5445  
伊達市噴火湾文化研究所 ニュースレター 担当： 小西・上野  
e-mail [bunka@city.date.hokkaido.jp](mailto:bunka@city.date.hokkaido.jp) <http://www.funkawan.net>